卵子提供の制度設計を考える

国内では、生殖補助医療に対する法規制が不在であり、海外で卵子提供を利用する日本人カップルが増加しているといわれる。現在は、個々の当事者において自己責任で渡航不妊治療が行われている。卵子提供は「卵子の老化」に対して有効な手段とされる。晩婚化＝晩産化により、今後、この動きには一層拍車がかかると推測される。こうした卵子提供に対する国内需要の高まりに対し、国内でどのように制度設計を行っていくか、ドナーやレシピエントの資格と情報の管理体制、子どもの地位に関わる法整備、家族支援など、様々な問題について検討する。

10：35-11：05
遠矢和希（日本学術振興会）
「我が国における卵子提供のガイドライン等の変遷と現況」

11：10-11：40
上野桂子（セント・ルカ産婦人科/JISART倫理委員会特別委員/JISARTフォローアップ部会)
「姉妹間卵子提供の現状と今後の課題」

11：45-12：15
岸本佐智子（卵子提供登録支援団体［ＯＤ－ＮＥＴ］代表・ターナー症候群患者団体連合会［ＴＳＳＪ］会長)
「無償卵子提供の現状と経過報告」

休憩　12：15-13：15

13：15-13：45
荒木晃子（立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構）
「配偶子提供と家族形成　－卵子提供/精子提供と養子縁組の対比から－」

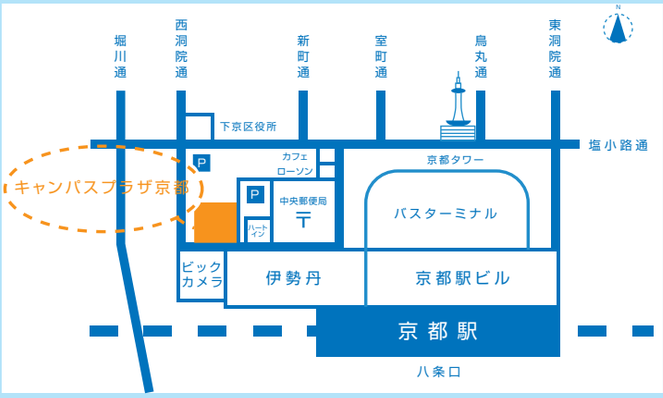
13：50-14：20
久慈直昭（慶応義塾大学医学部産婦人科)
「配偶子提供の匿名性と子どもへの告知　－精子提供の経験から－」

14：25-14：55
日比野由利（金沢大学医薬保健研究域医学系）
「不妊患者の卵子提供に対するニーズと選好」

15：00-15：30
渕上恭子（元南山大学 南山宗教文化研究所）
「エッグ・シェアリング　－韓国における卵子売買防止策－」

15：35-16：05
二宮周平（立命館大学法学研究科）
「卵子提供で生まれた子の親子関係と子の出自を知る権利」

16：10-17：30
コメンテーター：櫛島次郎（東京財団研究員）・二宮周平（立命館大学法学研究科）



<キャンパスプラザ京都>

〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下ル
（ビックカメラ前）
TEL(075)353-9111
FAX(075)353-9121